

松井 周が村田沙耶香と共同原案

2019年11月～12月演劇と小説を同時発表へ

台湾・日本 3年の創作期間をへて、運命の共作



いんせぱらぶる

切っても切れない=inseparable

松井 周と村田沙耶香が共同原案を元に、演劇と小説をそれぞれ発表するプロジェクト＝**いんせぱらぶる inseparable**を始動します。演劇（作・演出：松井 周）は 2019 年 11 月から東京・三重・京都・神戸の 4 都市で上演、小説（村田沙耶香）は 11 月下旬筑摩書房から刊行予定です。

松井 周は「自慢の息子」で 2011 年に岸田國士戯曲賞を受賞した劇作家・演出家・小説家で、〈サンプル〉を主宰しています。村田沙耶香は 2016 年に『コンビニ人間』で第 155 回芥川龍之介賞を受賞、『コンビニ人間』は累計 100 万部を突破しました。今回は村田作品、初の舞台化となります。

本プロジェクトは 2017 年の神津島（東京都）への取材から始まり、2018 年 1 月城崎国際アートセンター（兵庫県）での合宿&試演会、2018 年 5 月の緑島（台湾）・2019 年神島（三重県）への取材を経ており、共同でコア

（原案）を作って、演劇・小説・映像・アニメなど、二次創作的に発展させることを目的としています。ドッペルゲンガーなのではないか？というくらい強い、松井と村田の共感性を武器に、共同で原案を作り、同じ設定を基に、同じ編集者で 2 人が別々の作品を生み出します。取材と対話と時間に投資した、クリエイションにおける豊かさを提示したいです。

出演者に台湾人実力派 王宏元や大鶴美仁音を迎え、安蘭けいはホリプロ「レイマン」より 2 度目の松井作品出演です。

宣伝イラストは『サターンリターン』を週刊スピリッツで連載中の鳥飼 茜の描き下ろしで、絶望的な眼差しの少年は鼻血を垂らして事件性を感じさせます。

どうぞご期待ください。



城崎国際アートセンター合宿より

【松井周コメント】

村田沙耶香さんと話していると時間を忘れま
す。安楽死ブームが起きたら？とか、ニセの儀
式とか「もしもの世界」に足を踏み入れて夢中
になっている感じです。

取材した島や合宿先でも二人のおしゃべりは
続きました。「もしかしたら人間は実はこんな
ふうやってきて、こんなふう生きて行くの
かもしれない」という過去のひっくり返しや未
来の予感をどんどん煮詰めていったのです。そ
して、共通の設定を考え、小説や戯曲のプロト
タイプをつくりました。「あるある」を通り越
して「ないない」の域に達した設定でも、村田
さんの文章で語られると人や島の実在感が増す
なあと思いました。

個人個人で異なる現実、オルタナティブ・フ
ァクトがあり、誰もそこに踏み入ることはでき
ないとする風潮があります。自分にとって白か
黒かで事実を判断するのみで話し合いを拒絶す
る態度です。これは、もともと人間はウソとホ
ントの間に生きていて、信用ならないものとい
う認識が欠けているように思えます。ウソとホ
ントの間に生きているから、自分勝手だっ
たり、流されたり、錯覚したり、下心があつ
たり、「すきま」の部分があるのではないでしょ
うか。人間っていうものは、デタラメでエロ
くて愛すべき知的生命体だよなあ!と思えるよ
うなフィクションまみれの人間像を魅力的に描
きたいです。

inseparable=切っても切れないとは、やっぱ
り僕が村田さんと最初に会ったときに感じた
「村田・松井ドッペルゲンガー説」に基づいて
いると改めて思っている次第です。

小説も舞台もどうぞご期待下さい！

【村田沙耶香コメント】

小説を書くとき、誰かの作った設定を使う
ということは、私の一番苦手なことでした。

子供の頃、読んでいた少女小説の男の子が
主人公にあまりに冷たいので、二人が仲良く
デートしているところを書いてみようとした
ことがあります。でも、一行も書けませんでした。
主人公がどんな靴を履いていて、どんな
部屋に暮らしているのか、全部自分で決め
ないと、私にはどうしても書くことができ
ないのです。

そんな私が、なんで、「松井周さんと設定を
共有する」という不思議なプロジェクトに挑
戦することになったのか、自分でも奇妙で
す。でも、松井さんと話しているといつも、
無意識で理解できるような感覚があり、二
人で作品世界をつくったらどうなるだろう？
と思ったのです。

まるで子供のころみたいに、絵や地図や年
表を見せ合い、合宿して話し合いました。当
たり前だけれど松井さんの脳は私の脳とは違
うので、自分では思いつかないようなこと
もたくさんもらいました。私は、創作ノート
や途中稿を絶対に人に見せたくないですが、
inseparable ではそれをしました。

そして今、小説を書いています。ドトール
で、合宿で広げたノートをこっそりのぞき
ながら、文字を紡いでいます。舞台と小説が
どんなふうになるのか、楽しみにしていま
す。



神島取材より

台湾
緑島など国内外でのリサーチ
台湾人キャスト出演
国内4劇場との共同製作作品

山本 充(企画・編集)コメント

「inseparable(インセパラブル)」、切り離せない、分けられないのにそれがあえて言われることは、いま現在切り離されていること、分かれてしまっていることを暗示する不穏さがある。ひとりの人間が分かれたようにあまりにも似ている小説家と劇作家、ふたりが(再び?)ひとつになるとき、そこにどんな極彩色の漆黒が広がるのか。そんな夢を紙の上と舞台の上でともに見届けてほしいと願っています。

村田沙耶香『変半身(かわりみ)』は11月下旬、筑摩書房より刊行予定。乞ご期待!

いんせばらぶる

inseparable 「変半身 (かわりみ)」

原案：村田沙耶香 松井周 脚本・演出：松井周

出演：金子岳憲 三村和敬 大鶴美仁音 日高啓介 能島瑞穂 王宏元 / 安蘭けい

舞台監督：谷澤拓巳 美術：杉山 至 音楽：宇波 拓 音響：牛川紀政 照明：吉本有輝子 (真昼) 衣装：堂本教子 宣伝イラスト：鳥飼 茜 宣伝美術：佐野研二郎 香取有美 企画・編集：山本 充 プロデューサー：三好佐智子 企画・製作：有限会社 quina

共同製作：：三重県文化会館(公益財団法人三重県文化振興事業団)

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

神戸文化ホール(公益財団法人神戸市民文化振興財団)

莎士比亞の妹妹們的劇團

助成：一般財団法人地域創造

文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会

東京芸術劇場シアターイースト 11.29 -12.1

三重県文化会館 小ホール 12.14 -15

三重県文化会館 小ホール 12.14-15

主催：三重県文化会館(指定管理者(公財)三重県文化振興事業団)
後援：レオ・オキエーブ P.M. 三重

12月	14	15
	土	日
14:00	●	●
18:00	●	●

・受付開始・当日券販売は開演の90分前、開場は30分前です。
・演出の都合上、開演後はご入場をお断りいただく場合がございます。
・未成年児童の入場はご遠慮ください。

託児サービスのご案内

★の日は託児サービスをご利用いただけます。(有料・予約制・先着順)

※満席前までとお申込みください。

お申込み先：三重県文化会館チケットカウンター 059-233-1122 (10:00-19:00)

シアターメイブ先行発売 2019年9月12日(木)-14日(土)

チケット発売 2019年9月21日(土)

料金(税込・日付指定・整理番号付)日由席 一般：3,000円 / U-25(25歳以下)：1,500円 ※計算時に年齢を証明するものをご提示ください。

三重県文化会館チケットカウンター：059-233-1122 (10:00-19:00 休館日=月曜日/月曜祝日の場合は翌平日)

エムズネット：<https://www3.center-mie.or.jp/tickets/>

ローソクチケット：<https://l-tike.com/inseparable/> / 0570-084-004 (Lコード：41994) / 0570-000-407 (オペレーター) / ローソク・ミニストップ店頭 Loppi でも直接購入可能

チケットぴあ：<https://w.pia.jp/t/inseparable/> / 0570-02-9999 (Pコード：496-143)

三重県文化会館：三重県津市一身田上津部田1234 / 059-233-1122 / www.center-mie.or.jp/bunka/

【電車】近鉄名古屋線・JR・紀勢本線・伊勢鉄道「津駅」西口徒歩25分 【バス】「津駅」西口より三重交通路線バス(89系統)約5分



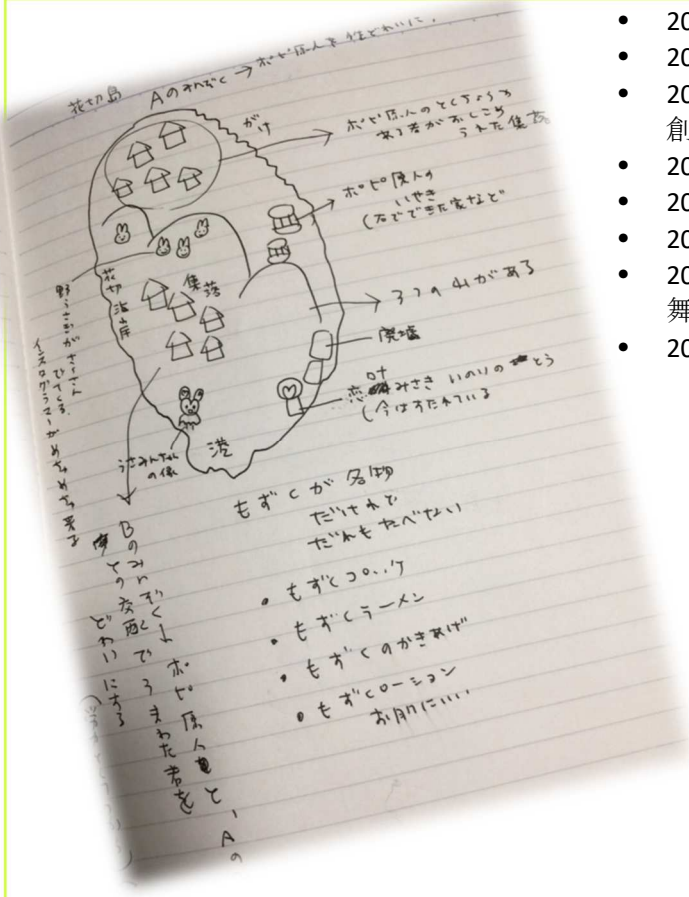
ロームシアター京都 ノースホール 12.18 -19

神戸文化ホール 中ホール舞台上 12.21-2

近未来。東洋のガラパゴスと呼ばれている千久世島という離島は、かつてない賑わいを見せていた。国産みの神話に登場する島であると同時に、その島で発掘される「レアゲノム」という化石由来の DNA がヒトや動物の遺伝子組換えに必要なものとして注目を集めているからだ。その島に住む男は、奇祭で弟を失う。ところがある日、弟は蘇り、まるで別人のように男の前に現れる。弟の存在は島の住民を狂わせていく。そしてそれは、島の存亡を揺るがす事態に発展していく...

創作の経緯

- 2017年 村田×村田 対談 (雑誌サンプル)
- 2017年10月 神津島 (東京) 取材
- 2018年1月 城崎国際アートセンター (兵庫)
創作合宿&試演会
- 2018年5月 緑島 (台湾) 取材
- 2018年7月 上野科学博物館 見学
- 2019年5月 神島 (三重) 取材
- 2019年11月~12月 東京・三重・京都・神戸
舞台上演
- 2019年11月下旬 小説刊行予定



台湾 緑島取材より



左上 村田創作ノートより
左下 城崎国際アートセンター合宿より

本作を媒体などでお取り上げくださいますよう、お願い致します。取材・資料の問合せは以下まで申しつけください。

---連絡先---

きなだ
三好佐智子/(有)quinada
TEL : 090-9393-0809 FAX : 03-6867-1786
住所 : 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 2-14-27 PANGEA TOKYO
e-mail : miyoshi@quinada.net HP : <http://www.samplenet.info/inseparable>

三重公演に関する連絡先 三重県文化会館 事業課 演劇事業係 南谷
TEL : 059-233-1100 FAX : 059-233-1106
住所 : 〒514-0061 津市一身田上津部田 1234 番地
e-mail : minamitani@center-mie.or.jp HP : <https://www.center-mie.or.jp/bunka/event/detail/27506>